

【平和を語り継ぐ授業 - 「つるちゃん」の読み聞かせを通して】

平和集会において、3年生は絵本『つるちゃん』の読み聞かせを行いました。この絵本は、実際に戦時中を生き抜いた「つるちゃん」という少女の体験をもとに、彼女の娘さんが執筆されたものです。

令和8年6月17日(水)



とよみっ子

発行 とよみ小学校
校長 玉城 健
令和8年度 6月号
3年生平和集会



☆子どもたちの心に届いた「命」の物語

読み聞かせが始まると、子どもたちは静まり返り、物語の世界に深く入り込んでいきました。

「南風原の壕」や「4月の湿った暑さ」という言葉から、当時の空気感を必死に想像しようとする真剣な眼差しが見られました。特に、「血」や「蛆（うじ）」といった過酷な描写や、ネーネー（お姉さん）との絆、宜野座への避難、そして「捕虜」としての経験など、戦争の生々しい現実に触れ、子どもたちは時に息を呑み、時に涙ぐむなど、多様な反応を見せていました。

☆語り手と絵本が紡ぐ、平和のメッセージ

今回の読み聞かせにおいて、語り手の声の「抑揚」は、子どもたちの想像力を大きく引き出しました。

悲惨な状況を伝える場面での重厚な声色と、家族の優しさを描く場面での柔らかい声色が、子どもたちの感情を揺り動かしたようです。また、ページをめくるごとに現れる「絵本の色合い」も非常に印象的でした。暗い壕の中の色彩と、穏やかな日常の色彩の対比が、戦争がいかに平和な日常を壊してしまうものであるかを、言葉以上に強く伝えてくれました。

